

2018年（平成30年） 6月1日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

5/17~5/23のNYMEX・WTIIは、71.28~72.24ドルの範囲で堅調に推移した。

5月24日は、イランやベネズエラへの経済制裁に伴う両国産原油の供給減少が懸念される中、ノバク露エネルギー相が次回6月22日のOPEC総会、非OPECとの合同会議における協調減産の緩和を示唆したことから、3日続落した。7月限の終値は前日比1.13ドル安の70.71ドルだった。

週末25日は、サウジのファリハ、ロシアのノバク両エネルギー相がロシアでの会談後、現行の協調減産を慎重に緩和する用意があると表明したこと、また、ペーカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数が859基（前週比15基増）と2015年3月以来の高水準となったことから、大幅続落となった。7月限の終値は前日比2.83ドル安の67.88ドルだった。

28日は、メモリアルデイの休日につき、休場。

三連休明け29日は、先週末のサウジ・ロシア両国米中エネルギー相会談における協調減産緩和を巡る思惑を受けて、5営業日続落した。7月限の終値は前週末比1.15ドル安の66.73ドルと4月17日以来約1ヵ月半ぶりの安値となった。

30日は、サウジ筋が協調減産の年末までの実施を発言したことに加え、一日遅れで発表予定の官米在庫週報が、原油在庫の取り崩しが予想されていることから、6営業日ぶりに反発した。7月限の終値は1.48ドル高の68.21ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（7月渡し）は、前週76.50~76.90ドルの範囲で推移した。5月24日77.00ドル、25日76.20ドル、28日73.50ドル、29日73.40ドル、30日73.60ドルで推移した。

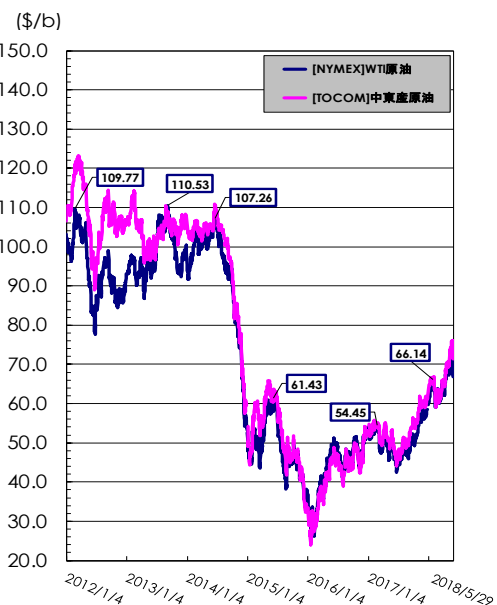
為替は、前週110.33~111.09円の範囲で推移した。5月24日109.69円、25日109.58円、28日109.53円、29日109.25円、30日108.41円で推移した。

財務省が30日発表した貿易統計（速報・旬間ベース）によると、5月上旬の原油輸入平均CIF価格は、46,587円/klとなり、前旬を1,944円上回った。ドル建てでは68.53ドルで前旬比2.19ドル高。為替レートは1ドル/108.09円。

主要元売会社の6月第1週に適用する卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと1.0円の値下げとなった。原油価格はわずかに値上がりしたが、為替レートはやや円高で、原油調達コストはわずかに値下がりした。

そのような中で、5月28日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.9円の値上がり、軽油も同1.8円の値上がり、灯油は同23円の値上がり（18%ベース）だった。ガソリンは6週連続の値上がり、軽油も6週連続の値上がり、灯油も6週連続の値上がり（18%ベース）だった。この週（5月第5週）の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、2.0円の値上げとなった。

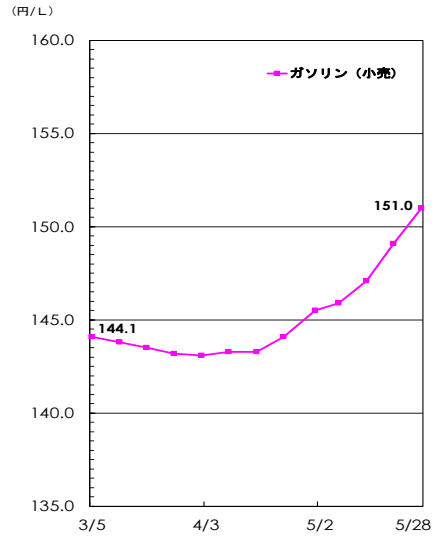
| 原油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 |
|----|------------------------|-------------|---------------|---------|
| 需給 | 原油処理量 (千kl) | 5/20 ~ 5/26 | 3,046 ▲15 | ▼ - |
| | トッパー稼働率 (%) | " | 77.8 ▲0.4 | ▼ - |
| | 原油在庫量 (千kl) | 5/26 | 12,870 ▼-182 | ▲ - |
| 価格 | 中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl) | 5/28 | 71.41 ▼-4.35 | ▲ 20.2 |
| | WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl) | 5/29 | 66.73 ▼-5.51 | ▲ 17.1 |
| | 原油CIF単価 (\$/bbl) | 5月上旬 | 68.53 ▲2.19 | ▲ 14.58 |
| | ①原油CIF単価 (¥/kl) | " | 46,587 ▲1,944 | ▲ 8,745 |
| | ②ドル換算レート (¥/\$) | " | 108.09 ▼-1.09 | ▲ 3.43 |
| | 外国為替TTSレート (¥/\$) | 5/28 | 110.53 ▲1.56 | ▲ 1.81 |



(単位: 千kl、円/%)

| ガソリン | | 今週 | 前週比 | 前年比 | |
|------|----------------------------|-------------|-------------|-------------|--------|
| 需給 | 生産 | 5/20 ~ 5/26 | 922 ▼ -12 | ▼ - | |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | |
| | 出荷 | " | 887 ▲ 12 | ▼ - | |
| | 輸出 | " | 48 ▲ 48 | ▲ - | |
| | 在庫 | 5/26 | 1,765 ▼ -13 | ▼ - | |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM) | 5/22 ~ 5/28 | 68.4 ▲ 0.9 | ▲ 19.9 | |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 5/22 ~ 5/28 | 65.9 ▼ -1.0 | ▲ 15.4 |
| | | (TOCOM/中部) | 5/28 | 65.0 ▼ -2.6 | ▲ 15.8 |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 5/28 | 151.0 ▲ 1.9 | ▲ 19.3 | |

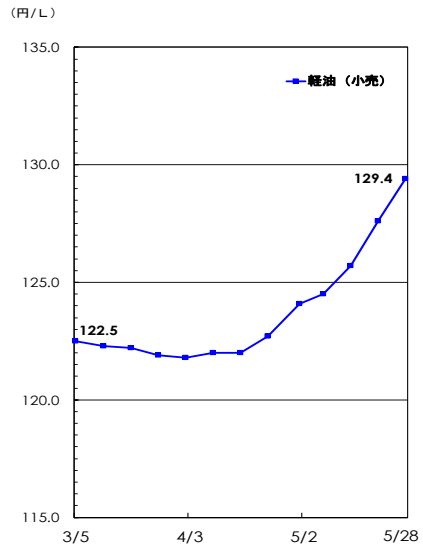
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

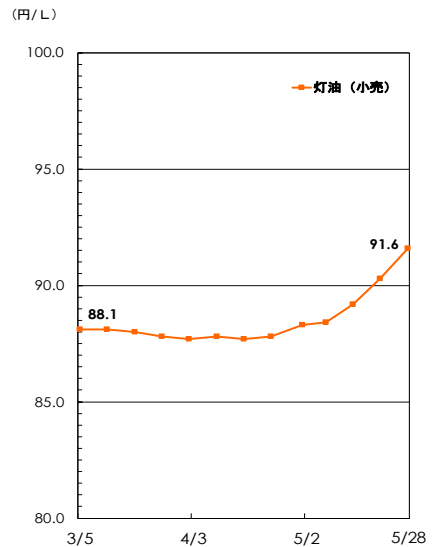
| 軽油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 | |
|----|----------------------------|-------------|-------------|------------|--------|
| 需給 | 生産 | 5/20 ~ 5/26 | 728 ▼ -40 | ▼ - | |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | |
| | 出荷 | " | 729 ▲ 81 | ▲ - | |
| | 輸出 | " | 90 ▼ -33 | ▼ - | |
| | 在庫 | 5/26 | 1,463 ▼ -90 | ▼ - | |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM) | 5/22 ~ 5/28 | 69.8 ▲ 1.5 | ▲ 22.1 | |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 5/22 ~ 5/28 | 68.1 ▲ 0.7 | ▲ 20.1 |
| | | (TOCOM/中部) | 5/28 | - | - |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 5/28 | 129.4 ▲ 1.8 | ▲ 18.6 | |

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

| 灯油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 | |
|----|----------------------------|-------------|-------------|-------------|--------|
| 需給 | 生産 | 5/20 ~ 5/26 | 188 ▲ 104 | ▼ - | |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | |
| | 出荷 | " | 135 ▲ 26 | ▼ - | |
| | 輸出 | " | 0 ➡ 0 | ➡ - | |
| | 在庫 | 5/26 | 1,512 ▲ 53 | ▲ - | |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM) | 5/22 ~ 5/28 | 68.9 ▲ 1.3 | ▲ 21.8 | |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 5/22 ~ 5/28 | 67.0 ▼ -0.5 | ▲ 19.8 |
| | | (TOCOM/中部) | 5/28 | 66.0 ▼ -1.5 | ▲ 18.5 |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 5/28 | 91.6 ▲ 1.3 | ▲ 14.7 | |



■ 関連情報

1 海外/原油

5月30日のNYMEX市場WTI原油は、ロイター通信がサウジ筋の話として、協調減産を年末まで、必要があれば来年も続けると報じたこと、また、ロシア中央銀行が原油安は同国経済にリスクとなると声明したと伝わったこと、さらに、三連休のため一日遅れの同日夕刻発表予定の米国石油協会(API)と翌日発表の米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が前週比50万バレル減と取り崩しが予想されることから、6営業日ぶりに反発した。7月限の終値は前日比1.48ドル高の68.21ドル、8月限の終値は前日比1.46ドル高の68.08ドルだった。

EIAによると、5月28日時点のガソリンの小売価格は、前

週比3.9セント値上がりの1ガロン2.962ドル(86.4円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比1.1セント値上がりの3.288ドル(95.9円/ℓ)。ガソリンは3週連続の値上がり、ディーゼルは10週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年5月20日～5月26日に休止したトッパー能力は73.6万バレル/日で、前週に対して11.6万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は304.6万klと、前週に比べ1.5万kl増加。前年に対しては12.2万klの減少。トッパー稼働率は77.8%と前週に対して0.4ポイントの増加、前年に対しては3.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。

ガソリン/1.3%減、ジェット/39.6%増、灯油/123.2%増、軽油/5.3%減、A重油/15.5%減、C重油/25.2%減。今週のC重油の輸入は8.6万kl(前週比8.6万kl増)。軽油の輸出は9.0万kl(前週比3.3万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェット、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比では軽油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は88.7万kl(対前週1.4%増)と前週比で3週振りに増加となり、9週連続で100万klを下回っ

た。

ジェット8.7万kl(対前週15.8%減)、灯油13.5万kl(対前週24.1%増)、軽油72.9万kl(対前週12.5%増)、A重油20.5万kl(対前週5.8%増)、C重油18.6万kl(対前週12.5%減)。

(単位:千KL)

| | 今週 (5/20 ~ 5/26) | 前週 (5/13 ~ 5/19) | 前週比 | |
|--------|---------------------|---------------------|-------|--------|
| ガソリン | 887 | 875 | ▲ 12 | (1%) |
| ジェット燃料 | 87 | 104 | ▼ -17 | (-16%) |
| 灯油 | 135 | 109 | ▲ 26 | (24%) |
| 軽油 | 729 | 648 | ▲ 81 | (13%) |
| A重油 | 205 | 194 | ▲ 11 | (6%) |
| C重油 | 186 | 213 | ▼ -27 | (-13%) |
| 合計 | 2,229 | 2,143 | ▲ 86 | (4%) |

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月26日時点の在庫は、灯油とC重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、灯油とC重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは176.5万kl、前週差1.3万kl減。前年に対しては13.1万kl少ない。

灯油は151.2万kl、前週差5.3万kl増。前年に対しては19.7万kl多い。

軽油は146.3万kl、前週差9.0万kl減。前年に対しては11.9万kl少ない。

A重油は76.1万kl、前週差2.5万kl減。前年に対しては4.0万kl少ない。

C重油は209.1万kl、前週差8.4万kl増。前年に対しては1.9万kl多い。

(単位:千KL)

| | 今週 (5/26) | 前週 (5/19) | 前週比 | |
|--------|--------------|--------------|-------|---------|
| ガソリン | 1,765 | 1,778 | ▼ -13 | (-1%) |
| ジェット燃料 | 1,064 | 1,112 | ▼ -48 | (-4%) |
| 灯油 | 1,512 | 1,459 | ▲ 53 | (4%) |
| 軽油 | 1,463 | 1,553 | ▼ -90 | (-6%) |
| A重油 | 761 | 786 | ▼ -25 | (-3%) |
| C重油 | 2,091 | 2,007 | ▲ 84 | (4%) |
| 合計 | 8,656 | 8,695 | ▼ -39 | (-0.4%) |

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月22日から5月28日の原油価格は、前週対比でわずかに値上がりしたが、為替レートがやや円高で、原油コストはわずかに値下がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、5月22日から5月28日までの間、ガソリン121～122円台で値上がり後値下がり、軽油68～70円台で値上がり後値下がり、灯油68～69円台で値上がり後やや値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間でガソリン122～124円台で

横ばい後大きく値下がり、軽油69～71円台で値上がり後大きく値下がり、灯油66～67円台で出入り後値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン117～121円台で値上がり後大きく値下がり、軽油67～68円台で値上がり後横ばい、灯油65～68円台で大きく値下がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと1.0円の値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、陸上は全て値上がりしたが、海上・先物は油種により、値上がり、横ばい、値下がり、まちまちであった。

6月第1週(5月31日～6月6日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(5月22日～5月28日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.9円の値上がり、灯油は1.3円の値上がり、軽油は1.5円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが横ばい、灯油は0.8円の値下がり、軽油は0.7円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが1.0円の値下がり、灯油は0.5円の値下がり、軽油は0.7円の値上がりだった。原油価格はわずかに値上がりしたが、為替は円高で、原油コストはわずかに値下がりした。

6月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと1.0円の値下げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

| [陸上ローリー4地区平均] | 今週 (5/22 ~ 5/28) | 前週 (5/15 ~ 5/21) | 前週比 |
|---------------|------------------|------------------|-------|
| レギュラー | 68.4 | 67.5 | ▲ 0.9 |
| 灯油 | 68.9 | 67.6 | ▲ 1.3 |
| 軽油 | 69.8 | 68.3 | ▲ 1.5 |

(TOCOM) (単位: 円/%)

| [期近物/終値] [平均] | 今週 (5/22 ~ 5/28) | 前週 (5/15 ~ 5/21) | 前週比 |
|------------------|------------------|------------------|--------|
| レギュラー | 65.9 | 66.9 | ▼ -1.0 |
| 灯油 | 67.0 | 67.5 | ▼ -0.5 |
| 軽油 | 68.1 | 67.4 | ▲ 0.7 |

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/22～5/28実績値) (単位: 円/%)

| 油種 | 現物 | 先物 | 平均 |
|------|-------|--------|-------|
| ガソリン | ▲ 0.9 | ▼ -1.0 | → 0.0 |
| 灯油 | ▲ 1.3 | ▼ -0.5 | ▲ 0.4 |
| 軽油 | ▲ 1.5 | ▲ 0.7 | ▲ 1.1 |
| A重油 | ▲ 1.4 | | |

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上/バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

5月28日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.9円高の151.0円、軽油は同1.8円高の129.4円、灯油は同1.3円高の91.6円(18%ベースでは同23円高の1,649円)だった。ガソリン・軽油・灯油ともに、6週連続の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは46都道府県、横ばいはなく、値下がり1県(沖縄県)だった。全国最安値は徳島県の143.7円(同1.8円高)、次が埼玉県146.3円(同1.6円高)、最高値は長崎県の158.6円(同2.0円高)だった。最も値上がりしたのは、3.7円高の鳥取県(151.2円)だった。

先週の原油コストはわずかに値下りしたが、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと1.0円の値下げに分かれた。6週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週

の原油価格はわずかに値上がりしたが、為替レートはやや円高で、原油コストはわずかに値下がりした。次週(6月4日)のガソリンの小売価格は値上がりか予想される。

(単位: 円/%)

| (資工庁公表) [週動向] | 今週 (5/28) | 前週 (5/21) | 前週比 | 直近高値 |
|------------------|-----------|-----------|-------|---------------|
| レギュラー | 151.0 | 149.1 | ▲ 1.9 | 08/8/4 185.1 |
| 灯油 | 91.6 | 90.3 | ▲ 1.3 | 08/8/11 132.1 |
| 軽油 | 129.4 | 127.6 | ▲ 1.8 | 08/8/4 167.4 |

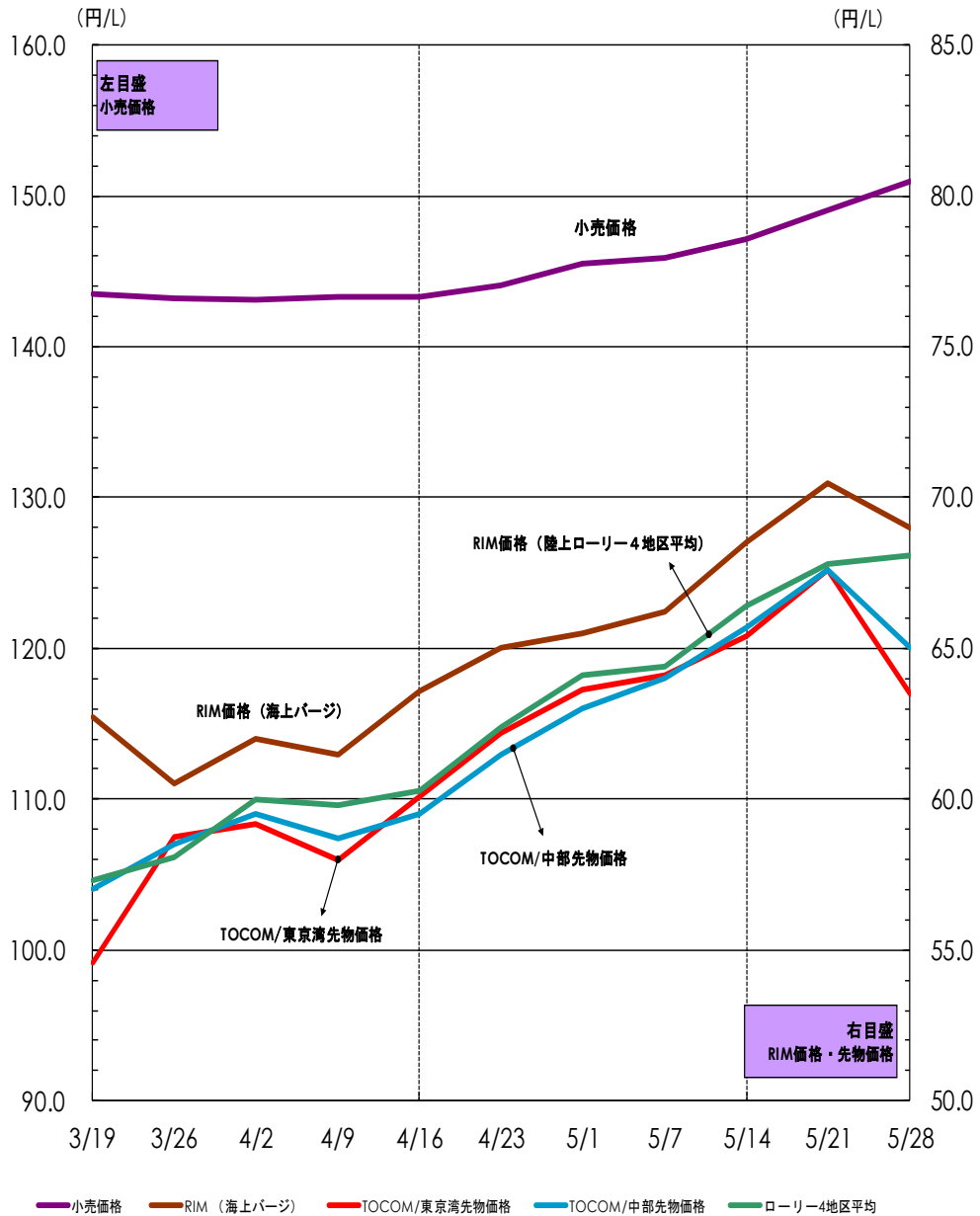
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/3/19 ~ 2018/5/28)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第9号)の公表は、6/8(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。